

記者発表資料
平成21年5月21日(木)
(財)横浜観光コンベンションビューロー
経営部長 池田 加津男
TEL:045-221-2111



横浜人形の家

開港150周年記念トピック展示

開港人形展 ~横浜生まれの人形たち~

2009 5/22(sat)~9/13(sun)



第一次開港人形

「開港人形」は昭和2年に横浜で誕生した郷土人形で、横浜開港当時の風俗を表し、数少ない横浜の郷土人形のひとつです。

誕生から現在製作されている型も含めて3度形を変えており、計4代の「開港人形」が存在しています。

今回の展示では、4代すべての「開港人形」を展示し、その製作過程などを併せて展示することで、その魅力を紹介します。

また、展示期間中6月から8月にかけて「開港人形」の絵付け体験を行います。



第二次開港人形

会場：横浜人形の家 常設展示 2・3階トピックコーナー
料金：大人（高校生以上）500円 子供（小・中学生）150円



第三次開港人形



新開港人形

企画展~港・ヨコハマ展開催中~

会期：2009年5月16日(土)
~6月14日(日)

会場：横浜人形の家 3階企画展示室

料金：大人（高校生以上）800円
子供（小・中学生）200円

~開港人形絵付け体験~

日程：6月2日(火)、27日(土)

7月6日(月)、25日(土)

8月3日(月)、29日(土)

絵付け指導：秋山信子氏(開港人形制作者)

第一次開港人形

時期:昭和 2 年(1927)～

デザイン:牛田鶏村(日本画家)

制作:村沢春吉

概要:5種7体。横浜・伊勢佐木町の野沢屋呉服店(後の松坂屋)本館落成記念として作成された。昭和 2 年 4 月 20 日から 10 日間、同店で開催された『横浜時代風俗展覧会』で始めて売り出された。

野沢屋顧問であった劇作家・山崎紫紅氏の提案により、横浜郷土社の斎藤正三氏、加山道之助(号・可山)氏他の協力の下、牛田氏がデザインし、村沢氏が制作に当たった。

第二次開港人形

時期:昭和 30 年(1955)～

デザイン:松島一郎氏(洋画家)

制作:村沢春吉氏

概要:9 種。昭和 30 年 3 月 1 日～10 日まで、伊勢佐木町・横浜みんげい主催の『日本諸国郷土のおもちゃ展示即売会』で始めて売られた。

第三次開港人形

時期:昭和 43 年(1968 年)～

概要:村沢宅は昭和 37 年 12 月に隣家の火災により類焼し、古い人形の型のほとんどを焼失してしまった。

昭和 43 年(1968 年)開催された『全国郷土玩具友の会・第 5 回全国大会』で郷土玩具製作者として顕彰を受け、同時に同会頒布用に『横浜開港人形』の制作を依頼された。第二次開港人形 9 種のうち、5 種を復活、『横浜開港人形』として会に納入、頒布された。その後、年頭の日本橋・東急の玩具展にも出品されるようになった。一般的に周知されているのは、この 5 種の開港人形である。

新・開港人形

時期:平成元年(1989)～

制作:湯沢利夫

概要:湯沢利夫氏は大正 12 年から昭和 19 年まで村沢春吉氏の下で働いていた。その後、独立、昭和 59 年春から横浜市南区の社会福祉施設・天神寮で陶芸クラブの指導に当たっていた。当時、田中たづ子さん、村沢敏子さんらにより製作されていた横浜開港人形が廃絶寸前になることを惜しみ、両氏の了解を得て自らの自ら人形の型を起こし、昭和 61 年(1986 年)課ら陶芸指導の一環として天神寮で製作に取り組んだ。

平成元年(1989 年)には十二体の新・開港人形が完成した。

残念ながら湯沢利夫氏は平成 3 年、83 歳で永眠された。

その後、天神寮で製作は続けられていたが、天神寮の廃園に伴い、現在は湯沢利夫氏の長女、秋山信子氏によって製作されている。

横浜人形

時期:昭和 63 年～平成元年

製作:府川泰行氏

概要:府川氏は南足柄在住の陶芸家。横浜ゆかりの人形制作が途絶えることを惜しみ、昭和 63 年に創作した。湯沢氏が「新・開港人形」を復活させたことを機に製作を中止した。

なお、府川氏はその後も足利人形という独創的な人形を製作されている。